

学んで 話して 楽しい にほんご教室

夢気球だより

「夢気球だより」編集部 発行

〒610-0121

城陽市寺田西ノ口7-4西邦ビル2階 城陽市国際交流協会内

電話 0774-57-0713

編集者 <西山雅文>



スキルアップ自前講座を開講

「やさしい日本語表現とワークショップ」

2017年7月15日(土曜日)、ぱれっとJOYOで、午後1時半からスキルアップの研修会が開催されました。講師は山本高志さん(夢気球役員)で、主題は「やさしい日本語表現」とそれを具体化するための作成方法と実習(ワークショップ)を交え行われました。

昨今、各地で大変深刻な被害をもたらしている巨大地震とか、500年に一度と言われる大雨による洪水、がけ崩れ等による土砂災害が各地で多発しております。マスコミ等で頻りに耳にする言葉に「今までに経験した事がないような大雨が予想されます」「身の安全を先ず確保して下さい」。或いは「急ぎ避けて下さい」。しかし残念ながら大半の外国人には、十分その内容を理解されるまでには至っていないのが現状ではないかと思えます。

地域によって異なるものの、最近では在留外国人、留学生、或いは日本を訪れる観光客等、多くの外国の方々を近くで目にする様になりました。日ごろからこれらの緊急事態に備え、心構えと対応力がますます問われる時代になりました。その様な状況の中、今回の講義は時宜を得たもので有り、大変有意義であったと思われま

す。では、日本語が十分でない外国人に、どうしたら伝えたい事を出来るだけ正確に伝える事が出来るのでしょうか。先ずは、**やさしい日本語を使うこと**です。「やさしい日本語」とは複雑な日本語が理解できない外国人にもわかってもらえる様な日本語です。それは難しい単語や表現を使わない日本語です。またそれにより情報を受ける側にとっては、起こっている状況を理解する事によって、よりリスクを減らす事が出来るメリットが有りま

す。伝達側の心構えとして、(1) 伝わる内容は言いたい事の半分だと思え。(2) 本当に伝えなくてはならないことだけを書け。(伝言)(3) 婉曲な表現は避けて、単刀直入に書け。(4) どうしても言いたい事でも伝わらなければ無意味。なるほど、正に目から鱗で言われて見なければ分からない。言葉と言葉のはあくまでもコミュニケーションの道具であると、改めて実感しました。



山本講師から、日々、やさしい日本語を如何に作成するかの説明の後、ワーキンググループにわかれて「やさしい日本語を作る実践」

した。今回のスキルアップ研修では、(1) やさしい日本語を使い、外国人とのコミュニケーション能力を養う事。

(2) 相手に理解してもらう伝言の仕方、文章の作成等、大切な要素を勉強できたこと。また、想定外の災害が頻発している今日、

外国人への的確な情報の伝達が如何に大切な事だ事は大変有効な研修会でした。(会計監査 峯松功績)

その後、質疑において、参加者から、学習者が無断欠席を続けた場合の対応として、支援者と学習者で確認することを基本としながらも、申込みの時点で学習者に夢気球として文章化(母語)して伝えることも必要ではないかとの意見があり、すこし時間をとって意見交換しました。学習者への周知については日本語だけでは一定の限界もあり、より効果的な手法を運営委員会

で検討する事となりました。そして、昨年度の報告今年度の提起・計画などについて全員の拍手をもって承認を得ました。総会の中で、意見交換も有り、すこし時間がずれましたが休憩して、ケーキやヨーヨー等の飲み物を頂戴し、片岡委員の進行で次の交流会に移りました。支援の経歴や様子もそれぞれに異なり、共通の話題についての交流とは行かないもの

夢気球第7回総会 開催される

委員会提案に関し 活発な議論が交わされる



第7回総会が4月22日(午後1時30分)から国際交流協会にて、16名の出席者のもとで開催されました。まず杉島代表から今年度の役員紹介があり、続いて新たな提起となる支援者登録制度、そして無断欠席の扱い方など、支援活動における留意事項、最近の日本語教室の動向についての説明がありました。さらに洪谷委員から昨年度の活動報告及び今年度の活動計画についての提起があり、最後に福井委員から会計報告、峯松委員から監査報告

があり、その後、質疑において、参加者から、学習者が無断欠席を続けた場合の対応として、支援者と学習者で確認することを基本としながらも、申込みの時点で学習者に夢気球として文章化(母語)して伝えることも必要ではないかとの意見があり、すこし時間をとって意見交換しました。学習者への周知については日本語だけでは一定の限界もあり、より効果的な手法を運営委員会

で検討する事となりました。そして、昨年度の報告今年度の提起・計画などについて全員の拍手をもって承認を得ました。総会の中で、意見交換も有り、すこし時間がずれましたが休憩して、ケーキやヨーヨー等の飲み物を頂戴し、片岡委員の進行で次の交流会に移りました。支援の経歴や様子もそれぞれに異なり、共通の話題についての交流とは行かないもの

その後、質疑において、参加者から、学習者が無断欠席を続けた場合の対応として、支援者と学習者で確認することを基本としながらも、申込みの時点で学習者に夢気球として文章化(母語)して伝えることも必要ではないかとの意見があり、すこし時間をとって意見交換しました。学習者への周知については日本語だけでは一定の限界もあり、より効果的な手法を運営委員会

で検討する事となりました。そして、昨年度の報告今年度の提起・計画などについて全員の拍手をもって承認を得ました。総会の中で、意見交換も有り、すこし時間がずれましたが休憩して、ケーキやヨーヨー等の飲み物を頂戴し、片岡委員の進行で次の交流会に移りました。支援の経歴や様子もそれぞれに異なり、共通の話題についての交流とは行かないもの

第7回学習発表会 盛況裡に終わる



2017年7月25日の火曜日(午後1時半より)「第7回学習発表会」が、城陽市国際交流協会で開催されました。さんが支援中)

5人の学習者が日本語でスピーチ

この催しは、交流協会と夢気球の協働で実施し、約2時間にわたり5人の学習者(支援者8人、市民の方や夢気球メンバーを含む26人(協会での開催では最高人数)が参加し、盛況裡に終わることが出来ました。

①パデ・アルヤル・ディバクさん(ネパール出身) ②尾崎・ソオレダアドさん(フイリピン出身) ③松下さん、草野さんが支援

この催しは、交流協会と夢気球の協働で実施し、約2時間にわたり5人の学習者(支援者8人、市民の方や夢気球メンバーを含む26人(協会での開催では最高人数)が参加し、盛況裡に終わることが出来ました。

その後、質疑において、参加者から、学習者が無断欠席を続けた場合の対応として、支援者と学習者で確認することを基本としながらも、申込みの時点で学習者に夢気球として文章化(母語)して伝えることも必要ではないかとの意見があり、すこし時間をとって意見交換しました。学習者への周知については日本語だけでは一定の限界もあり、より効果的な手法を運営委員会

で検討する事となりました。そして、昨年度の報告今年度の提起・計画などについて全員の拍手をもって承認を得ました。総会の中で、意見交換も有り、すこし時間がずれませんが休憩して、ケーキやヨーヨー等の飲み物を頂戴し、片岡委員の進行で次の交流会に移りました。支援の経歴や様子もそれぞれに異なり、共通の話題についての交流とは行かないもの

(広報 洪谷 陽)